

令和7年度第5回南外地域協議会会議録

令和8年3月24日

南外地域協議会

令和7年度第5回南外地域協議会会議録目次

■開催日時	1
■開催場所	1
■出席委員	1
■欠席委員	1
■出席職員	1
■次第	1
■開会	2
■会長あいさつ	2
■議題	3
1) 地域枠予算事業に関する報告について	3～4
2) 南外地域「彩色千輪プロジェクト」に関する報告について	5～10
■その他	10
■閉会	10
■署名	10

令和7年度 第5回南外地域協議会 会議録

■日 時：令和8年3月24日（火） 18時00分

■会 場：南外コミュニティセンター

■出席委員：10名

伊藤 伝悦、加賀 正夫、加賀屋 由香、風口 宏子、
今野 徹、佐渡 敏夫、佐藤 喜八郎、佐藤 正行、
進藤 覚、高寺 衛

■欠席委員：4名

伊藤 正人、伊藤 悠、伊藤 真紀子、相馬 静華

■出席職員：5名

○南外支所職員

佐々木 満智子（支所長）

小松 亮（市民サービス課長）

堀井 みわ子（公民館長）

菊地 明憲（地域活性化推進室副主幹）

照井 真央（地域活性化推進室主事）

■次 第：

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議題

1) 地域枠予算事業に関する報告について

2) 南外地域「彩色千輪プロジェクト」に関する報告について

4 その他

5 閉会

6 署名

(17時57分 開会)

○菊地地域活性化推進室副主幹（以下「地域活性化推進室副主幹」と表記）

皆様、本日は忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。定刻よりも若干早いですが本日出席予定の皆さんが揃われておりますので、協議会を始めさせていただきます。ただいまから「令和7年度第5回南外地域協議会」を開会いたします。

開会にあたりまして、佐藤会長からご挨拶を頂戴いたします。

○佐藤正行会長（以下「会長」と表記）

皆さん、こんばんは。今日は令和7年度5回目の最後の地域協議会ということで、お集まりいただきましてありがとうございます。

今年度振り返ってみますと、協議会はこのように会を重ねてまいりましたが、私の地元西板戸地区では私の自治会のすぐそばの物産台地区の皆さんが集団移転ということで、昨年の秋ごろですか、刈和野地区に移転されました。

6軒ありましたが、その内1件はまだ残られておりますけれども、昨年お伺いした時には皆さんいなくなって非常に寂しがられておりましたけれども、元気を出してくださいと話をしてきたところです。

人口減少の中、さらに他の地域に移られるということですが、ご本人たちにすれば毎回洪水などの被害に遭われて、ようやくそういった状況から抜け出すことができたのかなと思っております。

この南外地域の人口減少は、どうしてもやむを得ないところでございますけれども、その中でもみんなで良い知恵を出して、この地域協議会の中でもさまざまなアイデアを出して、元気を取り戻していければと思っております。

今日、南外小唄コンクールのパンフレットが配られておりますけれども、コンクールは20日の日に行われたわけですが、一般の部43名の中に南外の方が3名しかいらっしゃらなくて、逆を申せば地域外の方々からも南外小唄に興味を持たれているのかなともとれるところでございます。こういった事業を楽しく継続できるように、みんなで支えていかなければいけないのかなと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

本日は最後の協議会ということですので、活発なご意見をひとつよろしく願いいたします。

○地域活性化推進室副主幹

ありがとうございました。それでは議事に入らせていただきます。本日の出席委員数は10名で、過半数に達しておりますので、本会議は成立することをご報告いたします。本日の議題はその他を含めまして3件であります。また会議録作成のため録音させていただきますことをあらかじめお断り申し上げます。なおご発言の際は、挙手の上会長の指名を受けてからお願いいたします。それでは議事の進行は佐藤会長にお願いいたします。

○会長

はい。それでは協議会を始めたいと思います。議題に入る前に、本日の議事録署名委員を指名いたします。本日は進藤覚委員と高寺衛委員にお願いしたいと思います。よろしく願います。それでは議事を進めてまいりたいと思います。議題1 地域枠予算事業に関する報告について事務局より説明をお願いいたします。

○照井地域活性化推進室主事

はい。議題1、地域枠予算事業に関する報告について説明させていただきます。

資料1 地域枠予算事業説明書をご覧ください。「第10回南外小唄コンクール」開催事業の事業説明書となります。説明の前に資料の訂正をお願いいたします。事業の概要、事業費内訳のその他（寄附等）の金額を44,410円から84,467円に訂正をお願いいたします。

こちらは、南外地域に昔から唄い継がれてきた「南外小唄」の伝承と普及を目的に実施している事業で、今年で10回目の開催となります。イベントは、3月20日金曜日に実施済みで、当日は約250名の来場者で盛会裏に行われました。コンクールは、一般の部40名、年少の部6名で争われ、一般の部は秋田市在住の嵯峨泉稀^{さがみずき}さんが、年少の部では秋田市在住の嶺脇海翔^{みねわきかいと}さんが最優秀賞に輝かれました。コンクール後には、民謡日本一「小野花子さん」などによる唄声の披露もあり、会場は大いに盛り上がりました。

実績報告書はまだ届いておりませんが、予算内訳は地域づくり事業補助金240,000円と自己負担や寄附等も併せて、総額324,467円の事業費となっております。支出内訳としては、ゲストや審査員の謝礼、商品代、パンフレット印刷製本費代などとなります。南外小唄コンクールについての説明は以上となります。南外小唄コンクールなど実績が確定していない事業もあるため、確定ではありませんが、現時点での地域枠予算の執行額5,271,062円、執行率は87.59%と昨年度よりも約3%高い数値となっております。

続きまして、資料2「【令和8年度】地域振興事業費予算一覧」をご覧ください。令和8年度より、これまで使用していた「地域枠予算事業」から、「地域振興事業」へと改称され、「行政主導型」として実施していた事業は「地域資源活性化型」という名称になります。それに合わせて、これまで「彩色千輪プロジェクト」として実施していた事業についても、旧来の「行政主導型」の事業と統合し、新たに「地域資源活性化型」という予算の枠組みの中で実施していくことになりました。ただし、令和8年度までは、当初の予定どおり事業上は、「彩色千輪プロジェクト事業」として実施されます。彩色千輪プロジェクト事業に関連する事業に関しては、後ほど菊地の方から詳細を説明いたしますので、予算額のみご説明させていただきます。1番から7番をご覧ください。No.1「きよてんまつり」開催事業、予算額109,500円。No.2「防災教室 in なんがい」、予算額10,000円。No.3 地域おこし協力隊雇用事業、予算額4,748,000円。No.4 南外さいかい市活動PR事業、予算額166,000円。No.5 住民交流ワークショップ、予算額119,000円。No.6「地域とつながる！」プロジェクト事業、339,000円。No.7「地域の居場所づくり」事業、予算額55,000円。となっております。

次に市民協働型事業の説明をさせていただきます。No.8からNo.12をご覧ください。No.8

「南外桜まつり」開催事業は南外ふれあいパークでの観桜促進及び施設の利活用目的に桜の保全や芸能発表ステージやライトアップを行う事業で、予算額は 537,500 円です。No.9 環境整備活動事業です。こちらは、自治会単位で行う道路・側溝・河川等清掃に対して、作業に係る傷害保険や草刈り機、軽トラックの借上げ経費を市で負担する事業で、予算額は 1,057,000 円です。No.10 「南外地域運動会」開催事業です。こちらは、南外小学校グラウンドを会場に、地域住民を対象にした運動会を行う事業で、予算額 300,000 円となっております。No.11 南外地域花いっぱい運動です。こちらは花苗を配布し、自治会等が植栽・手入れを行うことで地域の環境美化につなげていく事業で、予算額は 273,000 円です。No.12 檜岡城址景観保全・継承事業です。こちらは地域の歴史遺産「檜岡城址」の景観を守り、後世に伝えていくための環境整備を行う事業で、予算額は 185,000 円となっております。

次に市民主導型事業の説明をさせていただきます。No.13 から No.19 をご覧ください。No.13 「南外小唄まつり」開催事業です。こちらは、南外小唄のコンクールや芸能発表を行い、地域の唄への愛着を深める事業で、予算額は 240,000 円です。No.14 南外盆踊り開催事業です。こちらは、地域出身者の帰省が見込まれるお盆休み中に住民参加の盆踊りを開催し、有縁者同士の交流を深める機会をつくり郷土愛を高めるきっかけとする事業で、予算額は 200,000 円です。No.15 『ふるさと南外の会』を応援する会」活動補助事業です。こちらは、地域住民と首都圏在住の「ふるさと南外の会」会員との交流を図る事業を補助するもので、予算額は 200,000 円です。No.16 「自然と食を考える」イベント開催事業です。「南外もぐらの会」が自然農法や食育などをテーマに継続的に実施している作業体験及び講演会等の事業を補助するもので、予算額は 300,000 円です。No.17 あきた里山プラス「木工体験事業」です。こちらは、地域資源である里山の活用や保全を目的に間伐材を活用したワークショップなどを実施するもので、予算額は 200,000 円です。No.18 「南外民俗祭」開催支援事業です。こちらは、地域の魅力発信や地域コミュニティの拡大などを目的に、南外ふれあいパークにて神楽・民謡・レゲエなど幅広い音楽にふれる機会を創出する事業で、予算額は 300,000 円です。19 「地域の拠点」利活用新規事業枠です。こちらは彩色千輪プロジェクトの一環として、拠点施設を利用して催事等を実施する任意団体の活動を補助するもので、予算額は 300,000 円となっております。

以上のように事業予定数は、「地域資源活性型」7件、「市民協働型」5件、「市民主導型」7件、「地域イベント応援型」1件の合計20件で、予算額は 11,139,000 円となっております。以上が、令和8年度に予定している事業の内容となります。

地域枠予算事業についての説明は以上となります。

○会長

はい、ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、ご質問やご意見がございましたら挙手の上発言をお願いいたします。何かございませんでしょうか。

○加賀正夫委員

南外地域の予算は分かりましたけれども、ほかの地域の予算はどのようになっていますか。

○地域活性化推進室副主幹

申し訳ありませんが、手元に資料を準備していないため、正確な数字はお答えできませんが、当地域の予算については、先程照井が説明したとおり、彩色千輪プロジェクト事業費と集約され地域おこし協力隊の人件費なども含まれているため、来年度の予算額は一千万円を超えており、他の地域と比べても額としては上位の方になるかと思えます。人件費を抜いた事業に関する部分も、他の地域と同等程度の額にはなっております。

○会長

はい、ありがとうございました。なにかご質問やご意見がございませんでしょうか。

○佐藤喜八郎委員

色々な事業をやられて、地域活性化ということを謳ってらっしゃるようですけれども、とりあえず南外の人口、多分減っているかと思いますが去年、一昨年と比べて減り具合が鈍って割と良いぞというような雰囲気でしょうか。

○佐々木満智子支所長（以下「支所長」と表記）

人口は、年間で100人位ずつ減ってきています。平成27年3月31日現在で人口は3,787人でした。これが令和7年3月31日で、2,804人ということで100人前後、毎年減っているような状況でして、令和6年度から令和7年度で、令和6年3月31日から令和7年3月31日までの間に、130人減っているような形です。その前の年は88人、その前は112人減っているような状況です。

世帯数にしても、平成27年3月31日で1,292世帯あったのが、令和7年3月31日が1,209世帯というような状況になっています。

大仙市全体で見ると平成27年3月31日86,068人、令和7年3月31日で73,217人。大仙市全体でもこのような状況です。

○会長

おおよそのパーセンテージは、出ようかと思えますけれども、いずれ頑張っていきたいと思います。なにかご質問やご意見がございませんでしょうか。

【質疑無し】

ないようですので、続きまして議題2の南外地域彩色千輪プロジェクトに関する報告について事務局より説明をお願いいたします。

○地域活性化推進室副主幹

議題②について説明させていただきます。

資料3の南外地域彩色千輪プロジェクト事業令和7年度事業実績をご覧ください。

こちらは、令和7年度に実施した事業をまとめたものになっております。

南外地域では、これまで地域活性化の方向性として、「自立してコンパクトな南外」「子どもからお年寄りまで元気で安心な南外」「自然豊かで人が集まる南外」、この3つの目標を立てて事業を進めてきました。

今年度の取り組みとして、「自立してコンパクトな南外」では、今年度新たに供用開始した「南檜岡コミュニティセンター」の利活用促進と、南檜岡地域の防災拠点としての機能も有していることから、地域住民の防災意識の向上をテーマにした「防災教室 in 南外」を7月に実施しております。拠点PR事業としては先月2月28日に「NEW! きよてんまつり」として実施しています。

続いて、「子どもからお年寄りまで元気で安心な南外」では、地域おこし協力隊関連事業として、南外さいかい市の活動支援や住民交流ワークショップなどを実施しています。予定していた地域情報発信フリーペーパーの発行については、スケジュールの都合などもあり見送りとなっておりますが、それに代わる事業として、南外中学校3年生のミニコミ誌で地域のことを取り上げ、地域情報の配信を行っています。

その他にも、「管内保育・教育機関との連携強化」ということで、南外中学校1年生が堀井徳五郎翁にちなんだ「昔ばなしかるた」づくりを、2年生は昨年引き続き市内イベントでの「南外ミニさいかい市」の企画・運営、3年生は地域住民や地域資源をテーマにしたミニコミ誌「ZINE」(ジン)づくりを実施しています。

地域の居場所づくり事業としては、毎月第2木曜日に南外民俗資料交流館で開催している南外さいかい市健康サロンや、10月2日には世代間交流サロンとして地元高齢者と南外中1年生による昔ばなしかるた交流会を実施しています。

最後に「自然豊かで人が集まる南外」では、毎年地域の拠点を活用する団体に対しての補助金を予算化しておりますが、今年度の実施団体はありませんでした。ただし、関連事業として、昨年から実施している南外民俗祭の会主催イベントについては、今年度も継続して支援を行っています。

裏面の説明の前に、別紙の資料4南外支所だより4月増刊号をご覧ください。

こちらは、4月に配布予定の南外支所だより4月増刊号です。前回は未定校でしたが「きよてんまつり」の記事なども追加し校了となったものになります。

2ページから3ページ目は、主に南外中学校との合同事業の記事になります。毎年実施している南外中学校との合同事業に関しては、校長先生からも大変ありがたいというようにお話をいただいておりますので、来年度以降も継続していきたいと考えております。

また、これまでは主に中学校との事業でしたが、今年度は昔ばなしかるた交流会ということで南外小学校からも事業に協力いただいております。今後も小学校との事業展開について検討しながら事業を進めていく予定です。

4ページをご覧ください。上段は、先日開催した「NEW! きよてんまつり」の記事になります。前回の会議などでご説明しているとおり、今回のイベントに関しては、新たな試みとして来場された皆さんが自らもの作りなどを行い、その「体験を楽しんでもらう」ということをテーマにしてイベントづくりを行いました。記事にありますとおり、当日は、地域おこ

し協力隊や南外地域にゆかりのある方々を講師に迎え、子どもから高齢者まで幅広い年代の方が楽しめるさまざまなワークショップを実施しました。

左上の写真は、会場となっている南外民俗資料交流館に所蔵されている、国登録有形民俗文化財「秋田南外の仕事着」をテーマにした「刺し子体験」の様子です。皆さん、会話も少なく集中して取り組まれていました。

右上の写真は、当室所属の能條隊員によるパーソナルカラー診断です。こちらは、能條隊員が前職などの経験を活かして実施したワークショップで、近年話題になっているパーソナルカラーをテーマにした講座です。参加者は女性が多く、皆さん興味深く説明を聞かれました。

このほかにも、「レジキョーホルダーづくり」やさいかい市のスタッフが実施した「塩こうじづくり」、スライムづくり、屋外イベントとして駐車場では、雪山滑り台や、マシュマロを焼いてつくるスモアづくりなども実施し、子ども達も喜んで参加していました。

また、檜岡陶苑とのコラボ企画として実施したB品を詰め合わせた福箱の販売も大好評で、5千円5箱、3千円10箱を準備しておりましたが、全て完売となり、その場で中身を確認した購入者の方もおり、予想よりもたくさんの商品が入っていたと、大変喜ばれておりました。

今回、こういった新たな取り組みを行い、これまでよりも家族連れの来場が多かったというように感じています。

ただ、南外地域外からの来場者も多く、そういった地域外の方々から南外地域を知っていただくきっかけになった反面、地元の皆さんからももっと来場していただき、楽しんでいただきたかったという思いもあります。

今後はそういった点も、踏まえながらイベントを企画していきたいと思えます。

下の記事は、地域おこし協力隊に関する記事になります。能條隊員については、今年度主な活動として、南外さいかい市の活動支援を行ってきました。

そのほかにも、地域住民との交流活動も、協力隊のミッションとして組み込まれており、今年度は、先程ご紹介したきよてんまつりで「パーソナルカラー」に関する講座を実施したほか、3月12日にも南外さいかい市健康サロンで美容講座を実施しています。

左下の写真が美容講座での写真になります。写真に写っている参加者の方にモデルになっていただいて、スキンケアやお化粧を体験していただきました。最初は、ほかの参加者からみられていて緊張していたようでしたが、お化粧した後には「キレイになった」などと声を掛けられ大変満足されたようでした。

このように、今後も南外さいかい市の活動支援だけではなく、地域の皆さんとの交流も増やしていきたいというように考えておりますので、委員の皆さんからも宣伝していただき、自治会などでご要望があれば、こちらまでご連絡いただきたいと思います。

また資料3に戻っていただいて、先程ご覧いただいた裏面が、令和8年度に彩色千輪プロジェクトとして実施を予定している事業の一覧になります。

彩色千輪プロジェクトについては、当初の予定どおり、令和8年度が実施最終年度となります。今後の方向性としては、先程照井が説明しましたとおり、令和8年度より予算上は「地

域枠予算事業」と統合され「地域振興事業費」という形になります。これまで「彩色千輪プロジェクト事業」として、実施してきた事業で令和9年度以降も継続となるような事業の方向性や取り扱いに関しては、令和8年度中に所管課である地域活動応援課と、各支所で協議を行っていく予定です。

来年度の事業計画に関しては、事業最終年ということもあり、これまで積み上げてきた事業をさらにブラッシュアップした内容で実施予定です。

はじめに、「地域の拠点関連施設での防災関連イベントの実施」についてですが、令和7年度に南檜岡コミュニティセンターを会場に実施した防災教室を「なんがい地域祭」と合同で実施予定です。合同での事業実施を予定しているため、予算額は消耗品1万円のみとなっておりますが、今年に引き続き、西分署などからも協力をいただき、地震体験車の体験などを予定しています。

次に、拠点PRイベントの実施ですが、こちらも例年同様、拠点施設を会場に年2回実施予定です。実施時期については、これまで同様に他の地域内イベントと重ならないような秋と冬の実施を予定しています。予算額は、イベント出演謝礼や報償費、チラシ代などを合わせて11万円となっております。

続いて、地域おこし協力隊活動関連事業ですが、こちらの予算額は5,033,000円となっておりますが、その内4,748,000円が人件費となっております。差額の約28万円は、地域住民や移住者との交流ワークショップなどの経費となっております。

先ほども説明しましたように、能條隊員には、活動2年目となり、これまで以上に南外さいかい市だけでなく、南外地域の活性化にも取り組んでもらいたいと考えておりますので、地域でなにかお困りごとや一緒に事業などを行いたいといった声がありましたら、ぜひ推進室までご連絡いただきたいと思います。

続いて、「地域とつながる！」プロジェクト事業です。令和8年度の南外中学校との合同事業は、「南外地域オリジナルグッズ作成」、「地域イベントの企画・運営」、「観光ガイドブックづくり」を予定しています。資料ではすでに学年を割り振っておりますが、新年度に中学校と協議し、学年ごとの事業内容などを調整したいというように考えておりますので、実施内容についても若干変更となる場合があります。

予算は、338,000円となっており、バッジづくりの消耗品や、イベントの企画・運営の講師を予定しているFMはなびを運営しているTMOへの委託料などとなります。

続いて、「地域の居場所づくり事業」では、南外さいかい市健康サロンや世代間交流サロンの継続実施を予定しています。こちらの予算額は、講師謝礼などで55千円となります。

最後にきよてん施設の利活用を目的とした、新規事業を企画・実施する団体への支援として、1団体分30万円の予算額となっております。

こちらは、現時点で実施を検討している団体等もございませんが、支所だより等でも補助制度について周知していく予定です。委員の皆さんからも、お近くでそういった事業をやってみたいという方がいらっしゃれば、ぜひご紹介いただきたいと思います。

議案2についての説明は以上になります。

○会長

はい、ありがとうございます。ただいまの説明につきましてご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

○伊藤伝悦委員

2月28日のきよてんまつりに参加しましたが、さっき事務局の説明にもありましたが、地域外からたくさんお客さんが来られたということで、感覚としては地区外の方がすごく多いという印象でした。

特にお子さんが、ふるさと館の2階でeスポーツということで、ディスプレイを4台並べてやっていたけれども、話を聞いたら全て地区外の子どもで南外の子がだれもいなかったです。

資料館の方では、いろいろな方が先生になってやっていたけれども、私の知っている範囲内では、中学生が0人、当日の来場者180人の中で南外の中学生がだれも来ていません。小学生が2家族、保育園児が2家族、すごく良いことをしていて魅力的なのに、悲しいなというのが正直なところです。

私は今年度で任期が終わりますが、小学校、中学校、保育園はもうちょっと協力的に、人員要請するくらいのことをすればもっと盛り上がるのではないかと、すごく良いことをしているんですよ。

ぜひ、令和8年度はそういったことを盛り込んでもらって働きかけてもらいたいと思います。

もう一点は、地域おこし協力隊の能條さんとお話する機会があって、さいかい市で毎週月曜日にいわゆる病院難民、診察難民のような方を市内の医療機関へ連れて行ってくれる。

その際に、受診している間実施している出張販売で、「あれがさいかい市の1週間分の売り上げになるんです。そういったところがいっぱいあれば楽になるのになあ」というような話でした。

○会長

はい、ありがとうございます。その他なにかございませんか。

○佐渡敏夫副会長

ちょっと聞き逃してしまったので、教えてもらいたいのですが、令和8年度の予算で地域振興事業の中に、TMO大曲さんをお願いする中身を教えてください。

○地域活性化推進室副主幹

これまで、南外中学校と事業を行っていく中で、今年度事業を行う際に、取り組むことを全てこちらで決めるのではなくて、生徒が自分たちで考えるような機会を設けて欲しいというようなお話がありました。今年度も、南外ミニさいかい市のような自分たちで企画を考えるような取り組みを行ってきましたが、来年度の事業の関しては、先程も話題にあがりまし

たが、地域内イベントへの子どもたちの参加が少ないということもありまして、中学生目線で考えることで、若い世代からも来てもらえるイベントに出来るのではないかと考えています。

イベントの企画運営に関しては、生徒と私たちだけで考えるのではなくて、FMはなびの運営のほか、市内イベントの企画運営なども実施しているTMOに協力してもらうことで、事業の幅を広げることが出来るのではないかと考えTMOに相談したところ、TMOでも市内の教育機関との連携事業などに取り組んでいるということで、そういった提案はありがたいということでした。

イベントの内容については、これから中学校とも協議しながら進めていきますが、こちらで想定しているのは、イベント全ての企画ということではなくて「なんがい地域祭」や「きよてんまつり」など既存イベントの中で、中学校部分を設けての実施を予定しています。

○会長

はい、ほかに何かございませんでしょうか。

【質疑無し】

はい。それでは、ないようですので、この議題につきましては終了したいというようにおもいます。

次に次第3のその他に入りたいと思います。何かございますでしょうか。

【無し】

ないようですので、本日の協議会はこれで終わりたいと思います。

また、本日の会合が今年度最後の会合となります。4月からは新たに第7期を迎えますが、任期更新される4名の皆さんからは引き続き南外地域のためにご尽力いただきたいと思います。

これをもちまして、令和7年度第5回南外地域協議会を閉会します。おつかれさまでした。

(19時00分 閉会)

南外地域協議会運営規程第7条第2項の規定によりここに署名する。

会議録署名委員

進 藤 覚

高 寺 衛
